

# 元気に「ワツシヨイ」

川口神社  
例祭

4年ぶりに子どもみこし

大館市の川口神社例祭が5日行われ、コロナ禍で中止していた子どもみこしが4年ぶりに巡行、児童たちの元気なかけ声が地域に響いた。

川口地区5町内のうち隼

人、西大館、川口上の3町内会が参加。神社で祈禱（きとう）した後、それぞれの町内を巡行した。

隼人町内会（松坂敏悦会長）のみこしは、4年前に秋



みこしを引く子どもたち（大館市川口）

田職業能力開発短期大学校との共同研究事業で新調したもので、主にスギ材を使用して軽さや丈夫さにこだわっている。今回が2度目の巡行となり、台車に載せて小学生や保護者ら約30人が約2・5キロを練り歩いた。民家前では「ワツシヨイ」と威勢のいい声を出し、みこしを大きく担ぎ上げた。家内安全の札も配った。松坂会長は「若年層の世帯が増え、小学生は昨年の8人から13人になった。元気な声を聞いて民家から出てくる人も多く、久々に盛り上がりた。来年は子ども用のはんてんを用意して充実させたい」と話していた。